

明治から現在まで、東京藝術大学で
買い上げとなった優秀作品を一堂に

かいあげてん
買上展

藝大コレクション展 2023

【会期】 2023年3月31日（金）-5月7日（日）

【会場】 東京藝術大学大学美術館（台東区・上野公園）
本館 展示室1、2、3、4

<報道関係各位>

2023年1月

東京藝術大学大学美術館では、2023年3月31日（金）から5月7日（日）にかけて、「**買上展 -藝大コレクション展 2023-**」を開催いたします。

「買上」とは、東京藝術大学が卒業および修了制作の中から各科ごとに特に優秀な作品を選定し、大学が買い上げてきた制度です。遡って、前身である東京美術学校でも卒業制作を買い上げて収蔵する制度がありました。現在では本学が所蔵する「学生制作品」は1万件を超えますが、本展ではその中から約100件を厳選し、東京美術学校時代から今日にいたる日本の美術教育の歩みを振り返ります。

本展覧会は、歴史とともに変化を遂げてきた買上作品を通じて、日本における近現代美術史が生まれてきた場を振り返る企画となります。また、本学における買上制度の意義を見直し、今後を見据えるための試みでもあります。買上作品の存在は、残念ながら学外にはほとんど知られていません。本展は、「保管及び展示等を通して教育研究に資するため」（作品買上基準）と規定され国の公共美術教育機関が買い上げてきた作品がその時代の最先端を示して来たことをひろく紹介する点において、また全科を俯瞰する壮大な規模という点において、これまでにないコレクション展となります。

本展の見どころ

◆巨匠たちの代表作、実は卒業制作

たとえば横山大観の《村童観猿翁》は、回顧展では必ず出品される代表作のひとつです。和田英作の《渡頭の夕暮》や高村光太郎の《獅子吼》も彼らのデビュー作にして代表作ということができますが、それらが東京美術学校の卒業制作であったことはあまり知られていません。本展は、近代日本美術を牽引した作家たちの原点が一堂に会します。

◆明治から今まで、学生はいつも最先端

学生たちは、卒業制作（修了制作）に持てる力の全てを注ぎます。その中から毎年、特に優秀な作品を選んで大学が買い上げ、収蔵してきた歴史の積み重ねは、その時代その時代を見直す最良のコレクションとなりました。最先端を生きた若き芸術家たちが何を求めて制作したのか、選りすぐりの買上作品が雄弁に語ってくれます。

展覧会の内容

【第1部】

「巨匠たちの学生制作」

本展第一部では、明治から昭和前期までの東京美術学校卒業制作を中心に、自画像などを含めて美校生たちの創作活動の全貌を明らかにします。

主な出品作品：横山大観《村童観猿翁》、菱田春草《寡婦と孤児》、和田英作《渡頭の夕暮》、小磯良平《彼の休息》、東山魁夷《スケート》、高村光太郎《獅子吼》、松田権六《草花鳥獣文小手箱》、富本憲吉《音楽家住宅設計図案》、吉田五十八《レクチュアホール》。他にも青木繁、萬鉄五郎、藤田嗣治など15名の《自画像》含め約50件。

【第2部】

「各科が選ぶ買上作品」

東京藝術大学では、昭和29年より卒業修了制作の中から各科ごとに特に優秀な作品を選定し大学がこれを買上げてきました。令和5年は買上制度が始まってから70年を迎えます。学生たちを勇気づけてきたこの買上制度の位置付けは、現在では科によって異なり、慣例的に買上賞と称したり、首席卒業と同等とみなしたりする科もあります。

近年は先端芸術表現、文化財保存学、グローバルアートプラクティス、映像研究など研究領域が広がり、それと同時に表現方法も多様化してきています。今回の展示では、各科ごとにエリアを設けて、選定した作品を数点ずつ展示していく構成をとっています。藝大における美術教育の歩みや今日の傾向などがわかる貴重な機会となるでしょう。

主な出品作家：河嶋淳司、櫃田伸也、丸山智巳、橋本和幸、鎌田友介、越田乃梨子、シクステ・パルク・カキンダ、荒神明香、岡ともみ、坂田ゆかり。

広報企画

【藝大生がつくる「買上」ショートムービー募集】

藝大生それぞれが思う「買上」について、自由な発想で15秒ショートムービー（CM）を制作し、大学美術館公式 Twitter および Youtube で紹介することで、藝大コレクション展 2023「買上展」の魅力を発信します。3月下旬から公開予定。再生回数が最も多い作品を大学美術館が広報動画として買上げます。藝大生が自由に制作するショートムービーをぜひお楽しみに！

「買上展」 藝大コレクション展 2023 開催概要

- 展覧会名称：「買上展」 藝大コレクション展 2023
 - 会期：2023年3月31日（金） - 5月7日（日）
 - 休館日：毎週月曜日（ただし、5月1日（月）は開館）
 - 会場：東京藝術大学大学美術館 本館 展示室 1、2、3、4
（〒110-8714 東京都台東区上野公園 12-8）
 - 交通案内：JR 上野駅（公園口）、東京メトロ千代田線根津駅 1 番出口より徒歩 10 分
京成上野正面口駅、東京メトロ日比谷線・銀座線上野駅 7 番出口より徒歩 15 分
当館には駐車場はございません。
 - 開館時間：午前 10 時～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）
- ※本展は事前予約制ではありませんが、今後の状況により、変更及び入場制限等を実施する可能性があります。
- 観覧料：一般 1200 円、大学生 500 円
 - * 高校生以下及び 18 歳未満は無料
 - * 障がい者手帳をお持ちの方（介護者 1 名を含む）は無料
-
- 主催：東京藝術大学、読売新聞社
 - 助成：藝大フレンズ賛助金、公益財団法人 花王芸術・科学財団
 - 問い合わせ先：050-5541-8600（ハローダイヤル）
 - ホームページ：<https://museum.geidai.ac.jp>

「買上展」 藝大コレクション展 2023 広報用画像データ申込書

申込はこちらまで→FAX:03-5685-7805 E-mail: am_kikaku@ml.geidai.ac.jp

貴社名：	媒体名：
ご担当者名：	発行予定日：
電話：	発行部数：
fax：	定価：
Email：	掲載予定コーナー名等：
画像の掲載サイズ（例：5 cm 四方など）：	

【貸出画像・キャプション一覧】*ご希望のデータの番号に○をつけてください。

第1部 巨匠たちの学生制作



①



②



③

第2部 各科が選ぶ買上作品



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



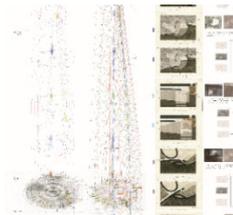
⑩



⑪



⑫



⑬



⑭



⑮

【画像キャプション】

以下のキャプションを必ずご記載ください。

(※冒頭の専攻名は必須ではありません。)

- ① [絵画]横山大観 《村童観猿翁》 明治 26 (1893)年 東京藝術大学蔵
- ② [西洋画]和田英作 《渡頭の夕暮》 明治 30 (1897)年 東京藝術大学蔵
- ③ [西洋画]萬鉄五郎 《自画像》 明治 45 (1912)年 東京藝術大学蔵
- ④ [グローバルアートプラクティス]山口諒 《白昼夢》 2020 年 東京藝術大学蔵
- ⑤ [彫刻] 日高(工藤)頼子 《女》 1963 年 東京藝術大学蔵
- ⑥ [日本画] 梅原幸雄 《遠い記憶》 1978 年 東京藝術大学蔵
- ⑦ [作曲]小野田健太 《Singable Blue for Orchestra》 2019 年 東京藝術大学蔵
- ⑧ [メディア映像]越田乃梨子 《壁・部屋・箱 一破れのなかのできごと》 2008 年
東京藝術大学蔵
- ⑨ [デザイン]岩瀬夏緒里 《婆ちゃんの金魚》 2011-2012 年 東京藝術大学蔵
- ⑩ [先端芸術表現]鎌田友介 《Other perspectives -The entrance-》 2011 年 東京藝術大学蔵
- ⑪ [油画]檀田伸也 《ひとたち》 1964 年 東京藝術大学蔵
- ⑫ [工芸]荒井由美 《ひろがる》 2016 年 東京藝術大学蔵
- ⑬ [建築]長田美波 《サーフィン》 2019 年 東京藝術大学蔵
- ⑭ [美術教育]高須咲恵 《girl's disguise》 2010 年 東京藝術大学蔵
- ⑮ [文化財保存学]林功 《羅漢図模写》 1971 年 東京藝術大学蔵

【画像使用に際してのご注意】

◆本展広報目的でのご使用に限ります(本展会期終了まで)。◆展覧会名、会期、会場名、クレジットは必ず掲載してください。◆作品画像は全図で使用してください。トリミングや文字を重ねるなど画像の加工・改変はできません。(応相談)◆再放送、転載など2次使用をされる場合には、別途申請いただきますようお願いいたします。◆基本情報、図版掲載の確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で美術館広報担当までお送りいただきますようお願いいたします。◆掲載、放送後は必ず、掲載誌、同録テープを、美術館広報担当まで一部お送り願います。

○展覧会についてのお問い合わせ、画像借用のお申し込みは下記までお願いいたします。

広報担当 加藤 E-Mail: am_kikaku@ml.geidai.ac.jp
Tel: 050-5525-2438 Fax: 03-5685-7805

展覧会担当 古田 Tel: 050-5525-2446